

子どもを予期せぬ突然死で亡くした親のグリーフへの
対処行動と潜在的ニーズに関する質的研究

説明文書

説明日： _____ 年 月 日

第 4.2 版 2023/11/30

この説明文書は、今回ご協力をお願いする生命科学・医学系研究について、その内容を説明したものです。この研究にあなたが参加するかどうかを決める際に、研究者による説明を補い、研究の理解を助けるために用意されています。

1. 研究の名称

「子どもを予期せぬ突然死で亡くした親のグリーフへの対処行動と潜在的ニーズに関する質的研究」

2. 倫理審査と許可

京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査を受け、研究機関の長の許可を受けて実施しています。

3. 研究機関の名称・研究責任者の氏名

名称：京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻予防医療学分野

研究責任者氏名：石見拓

4. 研究の目的・意義

お子さんを突然亡くすことは、他の死別と比べて長く深い悲しみを引き起こします。そのため、このような遺族の方にはグリーフケアが必要ですが、近所で受けられるグリーフケアの情報は手に入りづらく、病院や市役所などで紹介してもらえることも稀だと思います。そんな状況ですので、実際にはグリーフケアを受けたくても受けられていない遺族の方々が大量にいるのではないかと、そういった方々をサポート出来ないかと思ったのがこの研究を始めたきっかけです。

お子さんと死別されたお父さん、お母さんは、自らのグリーフと向き合い続け、悲しみに対処するために様々な行動を取ってきたことと思います。そういった経験は、新たにお子さんを亡くして悲しみのどん底にある遺族の方々が悲しみを乗り越える上で重要な助けとなると思います。さらに、皆さんが悲しみに対処するために取ってきた行動の背景にある思いについて考察することで、家族、友人、医療従事者、行政職員といった遺族を取り巻く人々が取るべき行動がはっきりするのではないかと考えています。

これまで子供の死別におけるグリーフケア研究は、主にごんや周産期を対象に発達してきました。しかし、突然死の場合のグリーフを調べた研究は多くなく、どのような

対処行動に意味があるのか、また遺族がどのようなニーズを抱えているのかははっきりしていません。そのため、お子さんを突然亡くされた親御さんにその経験をお話し頂いて、ヒントを得たいと考えています。皆さんのつらい経験は、グリーフを乗り越えてきた親しか知り得ない貴重なものです。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

5. 研究の方法

この研究では、お子さんを突然亡くされた親御さんへのインタビュー調査を行いたいと考えています。亡くなられたお子さんのこと、悲しみに対処するためにとった行動、周囲の人々から受けた援助、将来のグリーフケアに対する期待などについて伺います。インタビューは Zoom を用いて、研究実施者である今村と 1:1 でオンライン上で行います。当日の様子は録画させて頂き、録画データのうち音声データのみを使って、文章に書き起こして解析します。書き起こした後は、録画データは消去します。そして、これらの書き起こし原稿から重要な要素を抽出していき、その関係性を見出すことで、皆さんが悲しみに対処するために取った行動の根底にある、言葉では表しにくいニーズを明らかにしていきます。インタビューの所要時間は 60 分程度を予定しています。

大まかな質問項目は下記の通りです。

1. お子さんが亡くなられてから経験されたこと
 - 死因
 - 病院、警察、自治体、家族、友人、同僚の言動に感じたこと
2. グリーフケアに辿り着いた経緯
(参加されていない場合は参加しない理由について教えてください)
3. 悲しみに対処するために取られた行動
 - その子のご飯を準備する、遺骨を手元に置くなどの絆を大事にする行動
 - 酒の量が増えた、自暴自棄になり死のうとするなどの一般的には望ましくない行動
 - 他人に優しくなる、価値観が変わるなどのご自身の成長はありましたか？
 - ご自身の宗教観との関連
4. 将来のグリーフケアに期待されること

6. 研究実施期間

調査する期間は、研究機関の長の実施許可日から 2026 年 3 月 31 日までの予定です。

7. 研究対象者として選定された理由

本研究では、お子さんを突然亡くされた親御さん 30 名程度を対象とする予定です。しかし、研究の性質上、予定していた対象人数は研究途中で変化していくことが予想されます。

下記の条件を満たす方に研究参加をお願いしたいと考えています：a) お子さんを予期せぬ突然死（基礎疾患がない）で亡くした親御さんであること、b) 亡くなられた時のお子さんの年齢が 0 歳以上 18 歳未満であること、c) 現在親御さんが 20 歳以上であること、d) 死別から 1 年以上経過していること、e) 日本語を母語とすること。

ただし、f) 事前アンケートで精神的負担が大きいと考えられる方、また g) お亡くなりの方の原因によっては参加していただけない場合があります。また、現在精神科通院中の方は、研究参加前に主治医から研究参加の許可をもらってください。

8. 研究対象者の負担並びに予想されるリスクおよび利益

今回の研究は、参加してくださった方々に直接メリットがあるわけではありませんが、この研究によって子どもを亡くした遺族の方々に対してグリーフケアが適切に実施されるようになることで、間接的なメリットを受ける可能性があります。一方、大変つらい死別に関するお話を伺うので、心理的負担を感じさせてしまう恐れがあります。そのため、インタビュー後には気持ちの状態を確認させていただき、かなりお辛い状況が見受けられた場合は、専門の先生や電話相談にお繋ぎさせていただくことがあります。インタビューから 1 週間後にも再度 E メールで様子を伺わせて頂きます。また、インタビューのために拘束時間が生じてしまいます。

9. いつでも同意の撤回ができます

参加を決めてインタビューを行った後も、いつでも参加をやめることができます。参加をやめる場合は、録音・録画データやそれまでの調査記録は破棄します。ただし、お申し出があった時にすでに研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合もあります。参加をやめる場合には、文書を書いていただく必要があるため、研究実施者の今村までご連絡ください。

10. 研究に同意しない、または同意撤回において不利益はありません

研究へ参加するかどうか、もしくは継続するかどうかはよくお考えのうえ、自由に決めてください。同意しない、もしくは同意を撤回された場合も、不利益な扱いを受けることは一切ありません。また、答えたくない質問には答えなくても大丈夫です。

11. 研究に関する情報公開について

この研究は学術雑誌や学会での発表を予定しています。研究の進行状況はEメールでお知らせいたします。

12. 他の研究対象者等の個人情報等の保護、研究に支障がない範囲

で研究に関する資料の入手・閲覧について

研究について詳しく知りたい場合は、他の研究対象者の個人情報保護や研究の独創性に支障のない範囲で研究計画書や研究の方法に関する資料を見ることが出来ます。相談窓口までお問い合わせください。

13. 個人情報等の取扱いについて

対象者の方々の録音・録画データはもちろん、名前、住所など、個人情報の保護には十分配慮いたします。録音・録画データから文字起こしする際に、個人名を暗号化し、結果をお返りする時以外は番号で扱われます。番号の対応表や同意書などの研究に関わる書類やデータは厳重に保管します。研究の結果は学術雑誌や学会発表で公表する予定ですが、この時にも個人の情報が使用されることはありません。

14. 試料・情報の保管および廃棄の方法

研究で得られた情報はパスワード保護機能が付いたハードディスクに保存し、施錠できる部屋で厳重に管理します。研究終了後 10 年間、情報は保管し、その後廃棄します。ただし、のちに説明する「同意をうける時点では想定されない将来の研究」に使用するため、長期間にわたり保管する可能性があります。

15. 研究資金および利益相反について

1) 研究資金の種類および提供者

本研究は、公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成金を用いて実施します。

2) 提供者と研究者との関係

資金提供者が本研究の企画、運営、解析、論文執筆等に関与することはありません。

3) 利益相反

本研究の実施にあたり、利益相反については、「京都大学利益相反ポリシー」「京都大学利益相反マネジメント規程」に従い、「京都大学臨床研究利益相反審査委員会」において適切に審査しています。

16. 相談の窓口

説明の中でわからない言葉や質問、また参加や結果開示のことで相談がありましたらなんでも遠慮せずにお話してください。

1) 研究課題ごとの相談窓口

氏名: 今村知彦

所属: 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻予防医療学分野

住所: 606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL: 075-753-4400

E-mail: imamura.tomohiko.47e@st.kyoto-u.ac.jp

2) 京都大学の苦情等の相談窓口

京都大学医学研究科 総務企画課 研究推進掛

TEL: 075-753-9301

E-mail: 060kensui@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

17. 経済的負担／謝礼について

1) 研究参加への謝礼

本研究では、おひとりにつきアマゾンギフト券 2000 円分の謝礼をお支払いします。

2) 研究の費用負担

研究参加者の方が費用を負担することはありません。

18. 健康被害の補償について

本研究参加に伴い、精神的にかなりお辛くなっている場合、京都大学精神科への相談や近隣の精神科受診、心の耳電話相談などをおすすめすることがあります。

19. 試料・情報の将来の研究における使用および他機関への提供

本研究で収集した情報は、同意を受ける時点では特定されない将来の研究のために用いる可能性があります。他の研究への二次利用および他研究機関へ提供する際は、新たな研究計画について倫理審査委員会で承認された後に行います。その際、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻予防医療学分野ホームページ (<https://yobou.med.kyoto-u.ac.jp/>) 上で、研究の目的を含む研究実施の情報を公開するので、もし拒否されたい場合は上記相談窓口までご連絡ください。

20. 試料・情報の管理について責任を有する者

石見拓 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学専攻 予防医療学分野 教授

この研究についてご理解していただき、参加していただける場合、対面インタビューの方は「研究参加の同意書」に署名していただきます。オンラインインタビューの方は、インタビュー開始前にインタビュアーが E メールをお送りします。説明された内容のチェックボックスにチェックをし、記名欄にご自身のお名前を記載して返信してください。この説明文書は差し上げますので、よく読んでご検討ください。